

市長記者会見記録

日時：2021年10月5日（火）14時00分～14時21分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《市政一般》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

早速、質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いをいたします。

《岸田新内閣の発足について》

【t v k（幹事社）】 t v kです。よろしくお願いします。

昨日、岸田内閣が発足しまして、川崎からの選出の山際さんが入閣されましたが、お言葉などあれば伺えればと。

【市長】 まず、山際さん、入閣されたということで、本当に喜んでいます。それも、経済再生担当とコロナ対策ということで、まさに今、私たちが最重要課題となっている重要なポストに川崎市内のことを熟知している方がなられたということは本当にうれしいことで、是非活躍を期待したいなと思っています。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。もう1点、本日、横田めぐみさんが誕生日を迎えられましたが、先日も2日に集いを開かれましたが、改めて市長のほうからお言葉などあれば。

【市長】 そうですね、被害者家族の方、繰り返し言われていることですが、本当に時間がないという中で、具体的な、いわゆるアクションというものが政府から出てくると、新政権に是非期待したいと思っています。

なかなか、小泉さんの訪朝からもう20年がたって、あれからこんなに長引くとは思わなかったので、本当に具体的なアクションを是非求めたいと思います。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。

《選挙日程について》

【神奈川（幹事社）】 幹事社の神奈川新聞です。まず、市長選の日程なんですけれども、今日の3時から選挙管理委員会の臨時会が開かれて、31日の衆院選に合わせる

方向で話し合いが行われると思いますが、そこで正式決定ということになると思うんですけど、市長選の日程変更について、どういうふうにお考えになりますでしょうか。

【市長】　そうですね、これまでも申し上げてきましたけれども、短期間のうちに2回やるということではなく、同日にやれるということは有権者の利便のこともそうですし、ゆえに投票率が上がることを、市長選挙、本当に相乗効果が生まれるのではないかとことを期待したいのと、それから、やはりコロナ禍でありますので、人員の手配というのは結構大変で、自治会、町内会の皆さんだとかの御協力を得るのが1回で済むということは、コスト面も含めて非常にいいことだと思いますので、それはすごく歓迎したいと思っています。

【神奈川（幹事社）】　一方で、やはりこれまで刷ってきた印刷物を変えなきゃいけないとか、当初は11月かもしれないと言われていた中で、10月中にやるということで、押せ押せで変更のいろいろな作業をしなければいけないと思うんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

【市長】　そうですね、本当に市の選管担当者はものすごく大変なことに昨日からなっていると思うんですけども、ただ、任期満了の選挙、衆議院の任期はこうなるというのが大体分かっていたので、分かり切っている話なので、そういった意味では、準備は万全に整えていると思います。あとはもう印刷物だとか、そういう問題ですよ。ね。だと思うので、衆議院選挙となると本当にすごく大変なので、開票事務なんかは全庁挙げて協力するというのもありますし、滞りのない正確な選挙ができるように執行してまいりたいと思います。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【神奈川（幹事社）】　話題は変わるんですけども、最近コロナの感染者が、がくつと激減しているということですが、まず、その要因をどう分析されているかということと、緊急事態宣言が解除されてから、町なかでやっぱり人がすごく増えている状況だと思うんですけども、一方で第6波の懸念という声もいろいろなところから出ていて、第6波に向けて市としてどういう備えをしていくかということをお教えください。

【市長】　そうですね、第6波に向けてという意味では、この前もちょっとお話ししましたけれども、病床の確保といったときに機動的に動けるような準備をこれまで繰り返してきたので、大分その感覚ができてきたと思うのですが、それがスピーディーに対応できるような体制というのは、まず取っておきたいと思っています。

それから、これは、正確には専門家じゃないので分かりませんが、これだけ新規感染者が減っているというのは、明らかにワクチン効果が出ていると思うので、そうい

った意味では、3回目の接種の準備というのは、医療従事者、今のところ年内から始まって、年明けには高齢者ということになると思うので、8か月たってからということが示されているので、要は打った人の順番にまた接種券を、どーん、どーんともすごい数を発送していかなくちゃいけないという事務がまた発生してくるので、そういった意味ではその準備だとかというのを国から明確にもう少し示されないと何ともできないのですが、その辺の備えみたいなのが、いわゆる第6波に備えることにもつながってくると思いますので、それは万全を期してやりたいと思っています。

【神奈川（幹事社）】 そうすると、第3回目の接種についての準備も年内には、恐らく始めなきゃいけないことになるということですかね。

【市長】 そうですね、それが正直、医療従事者のところって、今まで都道府県単位でやっていた話というのは、果たしてそうなるのかと言ったら多分違うんじゃないかという話もあるし、そういった意味でいくと、みんな市町村という形になってくると早めの準備は必要ですし、そのための国からの正確な情報、スケジュール感というのは示していただきたいと思います。

【神奈川（幹事社）】 前回というか、1回目、2回目のときに、やはり国からの情報、県からの情報もそうですし、なかなか来ないで、非常にやきもきする中で準備されていたと思うんですが、3回目という状況になったときに向けて、国とか県に向けて、市として何か言いたいことはありますでしょうか。

【市長】 そうですね、やっぱり接種の事業主体というのは市町村になりますので、そうすると、そこへの一番早い情報提供だとか、何が支障に今後なるのかということの丁寧なヒアリングを是非やっていただきたいと思います。

【神奈川（幹事社）】 ありがとうございます。幹事社からは以上です。

《ふるさと納税について》

【読売】 読売新聞です。これまでも会見で出てきた話題かもしれないんですけど、ふるさと納税についてお伺いしたいのですが、今年度見込みで82億円流出するであろうということなんですが、この82億円流出ということと、あと、逆にふるさと納税で入ってくる額が、昨年度は増えて、2.5億円、それぞれの額の評価、受け止めをまず教えてください。

【市長】 これまでも申し上げてきましたけれども、ふるさと納税のふるさとを応援したいとか、お世話になったところにしっかりと気持ちで返したいみたいなことを、ふるさと納税の言っている趣旨自体は理解するところなんですけど、もう現実問題としては返礼品目的という形になっていますので、そして、影響額というのがこれほど大

きくなりますと、本当に市民サービスに大きな影響を受けることになります。要は、地方税を払っていただくというのは地域の参加費というか、そういう意味合いですの
で、その参加費を違うところというのは、それだと地域は回らないのは明らかで
す。

そういった意味で、ふるさと納税している人たちが、自分たちが自分たちの首を絞
めているという状況、要するに行政サービスができないようになってくるというのは、
これは多分、制度の趣旨ってあまり、そうなのと、そういう影響があるんだというこ
とを知らないでふるさと納税されてしまっている方というのは、やはりこれまでのア
ンケートなんかでも出てきているので、やはりふるさと納税の影響額が市民サービス
にどう影響してくるのかということを、私どもとすれば、しっかり広報していかなけ
ればならない課題だと思っています。

国に制度改正というのは、これまでも上限額を設定してくださいとかいうことをし
てまいりましたけれども、やはり高所得者が非常に有利な仕組みというのはおかしい
と、そういう制度改正はあらゆる機会を見つけて訴えていきたいと思っています。

【読売】 今年度は、交付団体になるということで、82億円出ていきますけれども、
一応、多少補填はされますけど、それがあってもやっぱり痛過ぎると、大き過ぎる流
出だなという感じですか。

【市長】 そうですね。実際、交付税で算定されるとはいっても、それでもってお金
が増えてくるわけではないので、そういう意味ではすごく影響が大きいですし、趣旨
から大分ずれていると思っております。

基本的に税源の偏りというのは地方交付税制度でしっかり措置されている話なので、
それをさらにこういう形でというのは、ちょっとレベル感が違う状況になっていると
は思っています。

【読売】 逆にふるさと納税で入ってくる2.5億円、昨年度で、これも増えてはいま
すけれども、どうでしょう、これはもっと増やしていきたいという気持ちはあるので
しょうか。

【市長】 そうですね、ただ、今本当に、もともとはこの返礼品合戦に参加しないと
言っていたのにもかかわらず、あえて参加せざるを得なくなっているこの苦しい状況
からすると、本当にメニューを増やして、何とか魅力のあるもの、魅力のあるもの
というのはただの返礼品競争という形ではなくて、川崎市の産業だとかというものを
もっとアピールするような、そういうものをこれまで追求してきたので、そういう努力
はこれからもやっていくべきだろうと思いますし、そのこと自体が産業振興にもなる

と思っています。

【読売】 ありがとうございます。

《カワサキハロウィンの終了について》

【t v k（幹事社）】 テレビ神奈川です。10月になりまして、10月といえばハロウィンだと思うんですが、カワサキハロウィンが一定の役割を終えたということで先日発表がありました。御所感はいかがでしょう。

【市長】 そうですね、ちょっと寂しい思いをしますけど、ハロウィンは終わりですけど、まちをこれから盛り上げていく新たなスタートというのは、何か一緒に考えていきましょうということを主催団体ともお話をしていますので、また違った形での川崎の盛り上げ方の、ある意味、終了と同時に次へのスタートと捉えて、前向きに捉えたいなと思っています。

【t v k（幹事社）】 ということは、終了を発表された後に、もう既にいろいろなお話をされたのでしょうか。

【市長】 具体的にこうということではないのですが、ちょうどコロナも、どうこれから収束していくのかというのはあれですけども、コロナからの復活に合わせられるような、今年というわけにはいきませんが、また新たな盛り上げ方を考えていきたいと思っています。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。

《新型コロナウイルスワクチンについて》

【市長】 ちょっと私から1点よろしいでしょうか。それはワクチンの話なんですけれども、実は今回、集団、大規模接種、それから南部接種会場だとか予約を受け付けたわけなんですけれども、それに対しての予約の埋まりが非常に遅い形でありまして、例えば大規模接種会場ですと、10月12日から接種が始まる回なんですけれども、これが、昨日時点で4.5%しか埋まっていないという、2万6,100回分あるのですが、そのうち、1,195回しか埋まっていないと。南部接種会場についても、これは13日から始まるんですけど、5.3%ということで、楽天の会場もせっかく御好意で、8、9、10ともう迫っていますが、それについても5.9%しか埋まっていないという状況でございまして、非常に予約が、もう充足感があるのか、あれなんですけれども、一方で、11月以降になりますと急速に体制を縮小しますので、12月頃打とうかなみたいな話になると、実際は接種を受けられないという形になってきますので、そういった意味では、希望される方はとにかく早めに予約をお願いしますということでございます。

今考えておりますのは、予約なしで受け付けられる形というのも体制を整えるべく、早急に準備をしていますが、そのことはまた後日整い次第発表させていただきたいと思うんですが、とにかく、このぐらい埋まりがよろしくないという状況なので、接種したいと思われる方はとにかく早めに、10月中に一遍打っておかないと11月中だと間に合わないことになるので、何となく11月末でしょと、だから、11月ぐらいに打とうかなとか思っていると、2回目のときに非常に困ることになるので、まずは10月中に1回目を打ってくださいということを、是非呼びかけをさせていただきたいと思います。

【神奈川（幹事社）】 いいですか。今、どれぐらいの年代が打っていないのかなというのをちょっと知りたいので、教えてください。

【市長】 まず、これは10月3日現在でございますけれども、対象者全体で見ますと、1回目が73%、2回目が62%ということになります。各年代で申し上げたほうがよろしいでしょうか。

【神奈川（幹事社）】 そうですね。

【市長】 65歳以上が、1回目が90%、2回目が89%、60歳から64歳が、1回目が84%、2回目80%、50歳から59歳まで、1回目が76%、2回目が67%、40歳から49歳まで、1回目が72%、2回目が58%、30歳から39歳までが、1回目が63%、2回目が47%、20歳から29歳まで、1回目が58%、2回目が42%、12歳から19歳、1回目が56%、2回目が32%となっています。合計で、1回目、2回目合わせて約184万回ということになっています。

【神奈川（幹事社）】 やはりそういうのを伺っていると、40歳以下ぐらいがあれということですかね。なかなか半分行っていないということですか。あ、40代は行っていますね。

【市長】 2回目ですか。

【神奈川（幹事社）】 ええ、2回目まで。

【市長】 そうですね、まずは1回目を打っていただくと自動的に2回目ということになるので、今、だから、73%まで来ていますし、既にシステム上、予約をしている方が約4万人ぐらいいらっしゃるそうなんですけれども、それ以上に、直接医療機関とやっていたいというほうがはるかにボリュームも大きいので、そうになると、かなりのパーセンテージでは1回目の予約までは行っていると思います。

ですけど、それ以上の御希望されている方で、もうちょっと様子を見ようかなと思っておられる方には、是非様子を見ないで、速やかに予約を取っていただきたいとい

う形です。

【神奈川（幹事社）】 分かりました。

【朝日】 今の件で。朝日新聞ですけれども、11月以降の接種体制の縮小というのは、どのぐらいのイメージになるのでしょうか。もう集団接種は終わるとか、個別接種だけになるとか、何かそういうイメージはございますでしょうか。

【市長】 そうですね、まずは大規模接種というのはもう11月で終わることになっていますし、南部接種会場もそうでありますし、集団接種も11月で終わることになりますので、基本的には個別医療機関もだんだん縮小に入っていくと思いますので、そういう形でいうと、急速にきゅっと閉じていくことになります。

【朝日】 今受け付けているものが最後ですか、受け付けの。まだ、もうちょい出るんですか。

【市長】 出るというのは。

【朝日】 集団接種って、大規模はもう多分これで終わりだと思うんですけど、今出ているもので。集団接種は3週間に一遍、受付をやっていると思うんですが、今受け付けているもので終わり、もう1回あるんですか。

【市長】 もう1回あります。

【朝日】 それがラストになる。

【市長】 そうですね。

【朝日】 分かりました。

【司会】 皆様方、いかがでしょうか。ほかにございますでしょうか。

よろしければ、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

（以上）

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044（200）0312